新板
紛入

日本書紀

四之巻

特
へ遠13
662
50

遠
門
號 662
卷 4

四之巻

目次

第一　寡男い世待よ金子持て廓の始
　　嘘つく女房を売り
　　一ふくろ乃乃中
　　行ゝ末に恋ゝ
　　二階へ揚屋の開眼
　　婦女房仕換を
　　わゞ男に老ゞ働き

明治三六年
九月十一日
購求

上

第二　あれたるとしをつみる遠のれ根え
口説の泪ふつてまつて空よりわへ
如命申ろで砥をとりて拭ふ
あるよ思てわ旅籠の素面ふね作病

第三　俄盲者いたの雪て遠ゝ元ま
方変分いわるい僧師の左数打
せるとあつぶ糟糠の編笠涙いろく
打解さ如命の虚云よわるく眼

一　憲男い父伝よ金拾打て廓の始
長柏屋弟名徒口賞関伝よりの受取乃白拍子。
今とれもど衣告ゝ　数とよ　らく。弟伝はて弟ゝ元ゝ。
外の新妃より。ちかゝ行ゆうみ　て奥ゆと。他の白拍子
屋ゝいとゆてゝ　ゝ見ゝて数高ゝ。受取ゆい生り歌
うゝ伝行ゆけてゝ　ゝ。ゝゝ　ゝ。ゝゝ　ゝ。
今十信の名沢よ　ゝ。ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。
すゝ弟伝ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。
新ゝ　ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。
人ゝ十数ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。ゝ　ゝ。

れいこそ、ものまつりとかいわれこそ、ゆきうの
ぶ、わかのれたいわれんこそけて、れいこそ、ものまつ
こそ、わかのの事で、今月がつ、いわうとこそ、ものつる也、ぶ、一ぶの
のれいこそ、ゆきうこそ、ゆめ、ばてはのうちゆとれこそ、ものうるいゆ、
ぶこそ、これでこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、
わうと、ぶこそ、商賣なるこれ、わかのようかいまくねこいこれわんまりこ、言ぶ
ものこそ、ぶこそ、ぶ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、
てのうこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
とはつる、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
ものこそ、ぶこの師匠と、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
くこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
るこそ、師匠こそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、

つきとわいそとたうぶこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
こそ、ぶこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、ものこそ、れこそ、
こそ、

異稿とゝり陸つと亜ぴ和るゆりの明存のセたつ者りてゆがてゆと舟よ
すいりあのらけてつい新の病ば付いぴ月稿といふのぴちるとれるとゆのろが
稿の立いたとりり伊方けてあのゆりかつ和るがりゆくよりい初る恵と者
しゆりつ恵白をたひつさ。新ます者のるねつがどゆいて今もけり
うんさんかりてゆ。ゆ稿よ者れいぴ先ひとちがちこ。稿あがたる集ゆけるや。
れてりく文殊も師直けせつく。あつたあるゆりる寄妙ぬ。智恵とあしてて
折てりろいでりけまいべそれい耳よりる伊いつ。あ者恵と者りて立ゆなり。
たりりば出智恵とあるりつく異稿稿てるとと組さあくはがたが稿よ
ちるりゆたひつさいがりたりるりでとりあれいぴされいが月たが方けて掩の女八
人ゆりけ西新とりく新て礼和をれいて人ぴりるゆ人いぶ和るが宝月
新まりりく伊ゆせずけるゆ稿人で居りあ稿が洋なりるはまりせ。頬り人がくと
異ゆりるけりりて居て。智恵のりがりて居ひ。屋くの町人のひすとりけを

こ海がけゆれりりえけて稿をりへ。宮門毛和毛恨ゆ四衣ア毛ゆがみ
稿りりあい紅ゆ和ゆ毛常てすりりそりまりにみがりひとりへ
ゆがりりりる女三百月ゆりりりあまあるおてゆねあいりくりの新
りて今世する。森ゆ人の白和ゆ月ゆ分へ四伊のあてりりさ。新方て乃がぬ
行の者ゆ月へ。ゆけりてはくが新がりりりよいゆ和のゆとりれて。ものまこ
くが金りりけをりりくさせて毛ゆゆ毛ゆ白。ゆ海いとりれての毛りゆ乃男
ゆ。ゆりてびがれ新ゆいりて者と宮ゆりりとゆ和てくと新くがゆり
ゆ新方のゆりゆせい仕稿よゆ入て白和ゆゆ和て仕ゆて出とりう。今の白りが
よりりいひ者の師直へ付がけの。いゆ和ゆ右日の伊のりけと。ゆ乃の世者
どたりりりさよりがの海ゆの元りりりり

ゆうれいの福徳を望まるゝ事

あるまつるれいの神をめ、ふしぎ有りてめでたく成ること

ゆうれいとなりてこのいとゝ無ふ成て金銭

ゆうれいの名を七百貫分に成けるゆへ

合つぼとなり神せ玉ふ話

使ふにいとまなくいさんでつゝべハテそれ

きつゝ向に有まつる有りんでおろ女ぐるまの

て男女とまつせみて俗の妻と高雲

男女の名あふよつて妻代のえ

有女とうゝ女と成の子を拾ふ

の廊とうらへ所をまゝ

有女妻とこゝろ成せろ世ろの寡男

足せ有りしてゆうとゝ成ふとゝ成れろ代ゝとこゝやの高ゝ高ゝ

せすむうにとうゝて二時へあげるゆ

拾ふくゝとうひ神そう人にもみ

女ぐゝさいゝとゝ性ひ多ゝ男にて

ゝの所ゝろ来わじどうゝれ有ろ男

ゝ中に松のおいまわろ男のゝ

ゝもゆうて行つれゝ時くゝとゝ

ろゝ人ゝ合ゝ三百ゝ来の方へ

べとゝそのれよいろゝれいひ時

くろゝ家に松ゝのおとそぐそわげ

ゝのまくつゝよそ有ゝ

よゆうれいを中ゝうゝて来ゝ

の廊に有ゝ

ゝ有ゝ

ゝ有ゝ

ゝ

かまの所へ見まひにまゐりぬれば、あるじのおとこ、酒肴とりまかなひて、
あるじのおとこ、かはらけとりて、
はるばるとうちのぼりにけるこの月ごろ、
人せとせとうるはしくとりまかなひて、
はるばるとうちのぼりにけるこの月ごろ、
はるばるとうちのぼりにけるこの月ごろ、
あるじのおとこ、かはらけとりて

よびよりぬのあにしてえ為ひいろ女仲人媒と一人ばかりにけ玉。
拵女のさ〻をさせるいたるべうんといひ人をさて敬くいふ事ゞ神さ
女と一あんう〻一番仲人媒と〻てえ為ひ仲ゝちゃんちゃんと〻ぞ是ん
を知ひてうべてやりくよびでけてたらに女ものたゞ中八ゝ字
の法うう〻十ゝ字のやりよいつさりの

二　まの山法はかそてんる遣女の根え

それ傾城傾国といふえい唐土の李夫人といふ美人とをわる河よ
北方に有佳人絶世而独立一顧い傾人城再顧い傾人国といへ
る法。花女にうて金紅をはくひたらしと男上と成るりの美く者和。
ゆゞこれ釈尊立抜して花女よ羽て西のうそび河をえて傾城
とあるすうう。沙羅して九条の町妙高ゝてゆりの花女とうへいる色の
をくれ〻れ方のおう風俗ゆゞこ〻とゝゆゝてゞすゞ法はてせるう

自然と風俗これをおうう。繋いた大仏殿のを繋をとうけて仏殿ふ
小部ていまゞ拵拵しちゞちびつきゝ。お繋をとうけそゆひ色ポ地の
あ法てゆゝてきくとうゆゞを。まゝ紙のうつきに法ゆうよ拵と法ゆうい
紅色ゞう色。肩をふゝく。花裝の肌付よもろさ拵ゞびうりうん乃
ゆうとうけ。ゆゝはとう箱のゆよに法毒るの紙束のりゆ。ようとのひう
ゆうゞさゆゝ。完彼しちゞまゝびゞ紙方ゆをけて第も全の仏経
とゝしるよしまゞ風衣い色法ゆよかゞうゝ。ゞのひきこ付。和
ゞう紙のこんゞゝとこれてふてこゝ。ゝ法ゆゝ紙ゞとゆを法ゆゞ拵
拵ふてゆるきゞこゝうひゞゝて男と移ゞうゝ。八ゝゝるゞゝ。ゝ男ゞ
をゝゞびちよゝくとふ法に為ゆ。ゝ十ゝ女ゝ紙ゆて。ゝ法ゆ法ゝ
とゝゝをゝゝゞ法の法ゆゝつゆゝてゆる女ゝの紙ゝゞゞゆゝの法拵ド
を為ゝゞと。為のゆゝ為ふ合ふゝて拵女ゝのゝるゆゝとゞふゝくと

とりゆめのごとくにの稚か出ろう。世界のうごろげついそのうごでんぐうにさいひ
出てさかりの世を来くるん紙ばくばつくくりそはの老い樓神ぐちはの出
和色出ていりのいどぐてさ色りれ来るまんくそおうれおくとれのわゆくく。
おちやとこぐさねやにくこび。菱いるくく図みて好とけくふこいて関まり
つくひするおぐくつかくとるれかおもいくびれ物をゆまりて語ゆぐれ
ゆくくとしつるご鬼打りくてるくすれど我合に接こくれるれいおぐ接の
うあぐく車名びよかし貝紙りけどゆりてのの関係いを縁よおまくぐれ。
つぐくは珠れぐはまれまにさげそのくいれをつるくみよいわくはま
この接れるれに歌ゆるく紙まの配のあられをおげやのくりひくひくその
陽くいれ接るれに手とハ今の紙くくて都のれと絵りけなごの接れのくれ
秋ひる出て世界れのわくをくるくあるの新くくんちくびはるる世界よひくさ
まはくれば紙ゆ万家ひんくぐはいるれぐとりおくてゆるり

りくるのぐわいたの耳とりくく国とふくくぐりられいくわゆくて二紙の
れよる代りけてくくくひちまくいみわ切紙くてりゆくくくりりくそのり
いくくひくりくくくてまりせびくくる尽くくにわりくぐりくくりくくとせず。
世界のくるおくれくれくくりゆでくれ紙おりくくれおりくくれ紙
くるる手ちくくくりんくれ世をくりわくれくくれくくくりりくくりゆくり
とる紙くどこあくれくりりゆゆ世界れぶくくりゆ人を紙まくれ行よ彩を
まくくくりくりくりのくくくりくくくれ紙くくくくりゆくりくり。紙をくいる紙
紙てくるくまくりの行来いれりまのおりゆゆくくくりまりくんずい。
風風のれいりんくゆくくりる紙よひくくくくりりくくくりりくくくりりくくの
ちくんよ白東ぐんくくの世まくりにゆくくくりりくくくりりくくくりりくくの
接くくくりくりくりくくくく

とれいろそめく。ぢのつきてるひつぢ。おまへ方の中間ぶれいこんのタ
をきうちゆりはやて。お稽古ら れをうこ稽古ぢ行ういるされをねう。
おまへ方がわびおわをやわ ぢ。ろいるに後つらねあくいるされまをい。
一ぢてもあひまた面白の中分作ぢのわと笑ばやく者よゆうて。
れのを色がわけう程よろこど甲斐色。ぢ高笑ゆさ体すうち稽古ぢを分
ぢ稽くようを。ぢて。世ろめ作くといるのるわるにしておいて。お願よ
ぢろう一年にあをう三度う中おのされて。ぢ。ろ栄てあってイトさん
せくいつ程のるひくいつろあく。さるぢ所の女房めをそ。ぢぐさみい
あわわそびくろくど。そ所わて紙よ動画とうけさひすて肯ろ。
正月芸作もおのづくありて。物自とうのひまるくぢの付そけも
うあいどくよ物ゆうまりてちれいぢ歌のあくぢ自のあ
の家にくいれぢ部よいぢの部もあくぢらづく色とうと付う。作中

きまぢ。ぢの物てて物ぢうけとれど。部屋の物物わき移ぢひ。ぢとさ人ちん
いひくて紙方の四家に泊てもくろ。づれ古代と体験する。頂城みい
関係の物わて。方と色のひくちろに。ぢ体のとうゆに封じみといるタ
稽ふとおろ。ぢ一年ちゆに。ぢてわろ自のみぢらそ中ぢんよ入
作ろれさ。今ゆくはとれあ色びくぢ入ぢ。ぢらくさ四よ中ぢるぢぐ行入ぢ。
半くに行タ。ぢくるれども。ぢ入ちをちのびわりくとびいろはの部よるひ
くろくとかとぢりのまくに出とくりしよ。ぢ。ぢ行ちくとよびル。ぢ子自月
カ歩稽ゆあ。ぢて。ぢくれの行ゆとろ。ひ。ぢ物ふぢ。ふみくとあくに焼よと
くいとろちぢのまくいゆくさるくとく。ぢ。ぢる者紙の高ぢくーろう
月出ぢて。ぢゆくと我神いぢと。ぢ谷川の乃本ぢーと。ぢよ門ろ山て。ぢ一
稽よとひこぢるくのぢいとひのくいるぢ。ぢ子ぢ。ぢ。ぢとちくし。ぢ。ぢ出
よいぢのちとうけてゆれまくくとぢ。ぢくうんぢくろぢる。ぢ。ぢ体ぢる

時代なれば男女とも男は男女とも女は結髪なれば男女とも髪ひとつ結髪なれば男女とも髪ひとつ
ちそめくくちるまいをひとりとびやうくくちるいろとつけるいろいろ
お行あの何ぞ女のこゝろあるとおけらくいぬ手でいるさねいそれのこ
ゝろ様女房れ手りとしぬ伊やくさやそ中ゆあるいを合らゆゆねいこゝろ
わるいとれゆゆこゝろいこゝろれいくこゝろねよこぬこの女房のまんこゝろ
ごとくぬいやくこゝとを口伝こゝろ伝のこゝのいひわゝそこゝろこゝ浴田曲の
繋とゆゝるて男にこゝろこゝめゝじゆゝげつけておれい姿ゝるこゝろこゝても
ちるまいくぬこゝそ浜出とゝゝ年中にこゝくこゝるい大口伝也男も
こゝろあひ仕出てぬいゝゝんせいて行ゝとこゝぬこゝてゝびは町ゝ見ゝとふんゝゝひゝ
でゝるまいそゝとけゝゝで門へゝけ出ゝゝとぬこゝるとあゝげゝ町
中ゝくこゝそ扱くゝ花ゝいこゝ行ゝゝおゝあのこゝ花ゝこゝふこゝる口伝ゝゝやとこゝ名く
浦ゝゝで所四の表ゝゝ命ゝゝぬゝゝゝゝゝゝ男の

のゝゝみゝゝゝゝゝゝ

ぬうとおくやまゆうやーにようせいぶんぶんぶん

ちぬ男に奥とこころざすう。彩箱奥と仕あ。ぷりつ。えゆうそ。
ぬ。こうしゃきぷ。ぷておぐさしのすぷ。ぷるる。ぷびぞ一張とぷ。ぷ。ぷい
いもぐさ。ぷ。ぷ。ぷ

四之巻目中
九郎の
けいせい町
ちぐまつ
三百文
の人金
あの太郎の
おえハ伝と
あげやへ
あつかこなれまを

かくかとんかまりはしたゝ。ゆくてかまをいれる
ぐせ。つらいにもせよ。俄よいねまをせ。たゞ分よい流ぐ。ゆくなる分
なれいちまへよはてぐ。かりなど。なれあまりする事のかゝぬまけあり。
まつ実つ俗よりかりしてぐされるばはちくずの女わぐやとけんぐ流う
あそびでゆくはちくれるかいどる切せられ。あの女中にあつて流れ
とおぐぐみてよせいちくぶ実俗くしゆまのかれぐ。由間ゲ仲へ。
ぐくる。面風のりもいてもあく。百振に物むみ振百振。降てとし一
交の花もちくされまつ。中くつまあいるの女わぐやくぱてぐ俗みくく
ちくて。拍くくせいかてちくまをとすげるくよせいちくあぐ。祝よい
張ぐ。かれ男にて肌とこれらままくのゆ振ちとあんとぐあくまたりせい。
先とて面毎れとおくこ。ゆくまはすはくあまぐちまくんけりいと
ちくぐ男のりてもいくるくく合いとくるくくとくてもいる肌をちくて来い物まちくと。

物をはじを振の物をゆくて。ゆくてくるトンをゆくて。おくをまるゆ財ちゆ
ちくれて。三百姿の小判を出。せの中に出いる初のあくちぐ。俗に新百姿
のかくてあり。嘉者俗いこれくこのかつまあい古振新みくつ女のちくまの
出流振は番院れの出姿振は出面ゆる。万面やち無流ちく出
かくるぐ。ばは出流振れる出り出て。伝おさくい新みくつ女房い。和間
あぐのみよ。三百姿の質和ゆて。振女中くつ方人ほも肌とちくく。
ちまちくるのの。ちぐやまし女房ぐ。この中にいれ月ど。結地。流
今ちくおりの結和ちり。数方に三百姿と流。ゆくて女房とはまくて
ひくちくにも具てまれて。別ちくまとおりくさし寝くに伝ちれ
しゆぐきのくこれくくあにくくて。ばは流くる入。数方に射面て。今ちと
流くつまを面て切んくく振ぐ。ゆる。振て毛ぐ数数とくて大形るくね
ちくくゆぐくるのの俗ちる動ちる多振て。ゆくれ生涯のちゆに。一振

枕をあのしとぞ。ぞうり。あ。ぞうさざ。ぞ。仕の袖とめくしぞとぞ枕を
うぐるハ。ぞあと。出て。ぬ。紙。方とぐ。ぞ。ぞ。ぞ

をびぬ法師のに鏡へお仕つとしやがて
かくう法師殿方へ今宵をおをそうつれぬやうてのちやいと拍子と
ゆめやうやうや性でけつまうぬ無沢よりそれをいくばわ言のお
時くのうんげのあとゆえてを比物うるゆんじ。ぬとまあぐうぬま
わうるれいぜひよりでね仕合ぬ。ちうあぐうせあてのにんぞトれ。
愛ぬ。もつとけびけつそやは扇の門を出れいぬ新めそうぐ女房。まてい
うる点の命そへ愛まりも始ぬ。ぬ。今は屋にかるいぬで女のた
をふそぐの頭きにも松いうつやきうた拍子とうあ紙つそ。男
よあつるまふそてあうぬるれいぬひまりたぬでおをとつさん。
ちやに敬さを愛と拍子へぬ無沢愛といぐれんお新をゆくぐ
おまのう。元拍子邪と合ふそ合ぐ。ぬまぐ紙そていゆくといわう
きんぬ男人のにぬのやにぬ門をゆるとく新めそうぐ女房ぬまぐ門を出

どぬにうるまれのうぬいぬ拍子女というあうぐのれいぬわつまうそてを紙くぐ
されんとのはうぬ。ちうぐぬはあまとそてぐざるうはまとうあへは
男のをい女房にうるいぬ男のうしぬぐをいおうと紙新方をすす
のをきぬ。ぬぐのはとすぐうれいぬぐゆまとけるおい肌をふるまい。
いぐ方にのそしあねるとうわのうぬと。はあとも拍子へぐれつさ
たうあうぐ。ちやは拍子へお鏡へ出入をるぐうやの男でぐいうん男方
とはんをあへぬのおをしろうよおへぬでんぐうちうぐめんうぐと煩へ
新はうぐぐ。ぬぬにんうぐ片ぬにぬ出入を新へぐうつはうぐのげつきん
ぬまぬをうそぬる無沢。洞をはんぐくうとあぐ。ぬうれいぐ新ぬて邪あうと
今ぬちうあぐ。おうをとれいぬひまりて拍子とうるめ。ぬたのぬいうれを
おすまをぐうぐ。ぬいぐくぬ無ぬいぬ。ぬ。ぬ服を拍子の方ぬうあ。ぬ服を拍
くぬうそぬ。ぬをうは出。絶へとれいぬ。わあはうぐうやもあぐうさうすをのの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四文字卷終